磐城新聞

（廿三日夕刊）

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　一行五十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

平町本年豫算六十九萬圓
水道工事で十四萬圓の増額
けふ町會に提出さる

平町に於ける本年度歳入出豫算は二十三日開會の町會に提出されたが歳入出總額四十四萬九千八百二十圓にして前年度豫算四十五萬四千九百九十五圓に比し五千百七十五圓を減額し次に特別會計（水道部）豫算は二十三萬九千百八十八圓にして前年度九萬一千三百六十四圓に比し十四萬七千八百二十四圓の増額となるが前者一般豫算の減額は專ら緊縮方針に基き少額なりとも五千餘圓の輕減を計つたが後者水道豫算の莫大なる増額は水道の擴張改修にのみ依り十三萬一千二十二圓と云ふ巨額を要し必然的の膨張である、而して今年度一般豫算案に表はれた新規事業は町役場建築費として八萬二千圓を初め第四小學校敷地買收等を計上したが歳入出豫算案の内容を大別すれば左の如し（△印は減）

▲歳入の部（圓單位）
（財産より生ずる收入）三、七三九（使用料及手數料）一六、四二五（交附金）七、三二六（國庫下渡金）二三、二〇一（就學奬勵金）二五（國庫補助金）六五〇（縣補助金）一八、五〇三（寄附金）△一〇、六二八（財産賣却代）一二六、七九一（繰越金）一一、〇〇〇（雜收入）△一、三六三（町税）一七八、五六九△歳入合計四四九、八二〇

▲歳出經常部（圓單位）
（神社費）三〇（會議費）一、五八〇（役塲費）三三七、七二六（土木費）四、五二五（小學校費）七八、四九八（商業學校費）一八二二（商業補習學校費）△五六〇（青年訓練所費）△一、一八七（學事諸費）五〇（トラホーム豫妨費）六一三（街路撒水費）三、七五六（傳染病豫妨費）△八九三（傳染病經費）△一、五三二（給料）△[illegible]、一五三（雜費）△五三六（需用費）△六八五（諸費）一八（汚物掃除費）七、三四三（公園費）△一、二九一（火葬塲費）五八八（勸業費）△九〇（統計費）四〇〇（職業紹介所費）三、四九六（救助費）一四〇（警備費）△六、〇三二（徴發費）一（基本財産造成費）△一、〇七四（財産費）一、一七一（諸税及び負擔）一一八（交附金）四〇〇（雜支出）一五（公債費）五一、九八八（戻入金）二、八一二（地方改良費）一、三九〇（豫備費）五、〇〇〇△合計二三三、四二〇

▲歳出臨時部（圓單位）
（土木費）一三、一五二（小學校費）六九〇（商業學校費）二四二（公園費）六四九（警備費）二、一七六（役塲建築費）八三、〇〇〇（寄附金）一五〇（補助金）二、五六〇（雜支出）一八、〇一六（町是調査費）五〇〇（土木費繼續費本年度支出額）三七、四七二（小學校建築費今年度支出額）五一、六九二（土地買上本年支出）六、〇〇〇（火葬塲建築費）八三五三（合計）二一六、四〇〇

特別會計
（水道部豫算）

▲歳入の部（圓單位）
（使用料及手數料）五五、〇一二（給水工事費收入）一三八、九七五（雜收入）一三〇（前年度繰越金）一、〇〇〇（繰入金）一八、〇一六（過年度寄附金）四三〇（補助金）五五、六二五（借入金）一〇〇、〇〇〇（合計）二三九、一八八

▲歳出經常部
（事務所費）二一、七五七（作業費）七、四九三（雜支出）八四五（公債と）四一、〇六二（豫備と）一、〇〇（合計）七二、一五七

△歳出臨時部
（配水管敷設と）八、〇一五（上水道擴張本年度支出額）一九、八四八（ト水道擴張工學本年出支額ト）一三一、〇二二（公債と本年度出支額）三、六四六（豫備と）四、五〇〇（合計）一五九、〇一六

（以上）

平税務署の
酒造高減
去年が三百石

平税務署では昭和三酒造年度淸酒釀造高即ち昨年十月以降本年一月末日までの釀造高を調査した結果による本年度は六千百二十九石で前年の六千三百六十石に比し二百三十一石の減を示して居るなほ同期間にたける淸酒の藏出し石高は六千三百九十三石で前年同期の六千七百十五石に比較すれば三百二十二石の減少であるこの剩成藏出しの各減少は要するに不景氣のためその影響を受けたものである

米屋の番頭
賣掛代を横領

安積郡片平村字淸水臺生れ元治長男本田文一（二四）は昨年十二月中石城郡湯本町字三函米穀商新妻稔方に雇はれ中得意先なる同町居住の寫眞業沼地初之助方から米の注文を受たのを奇貨とし代金三圓餘をごまかし横領費消した外同様手段を以て前後數回に亘り代金を着服してゐたこと二十二日平署員に探知され取押さへられた

植田町の後任町長
問題行き惱む
政民勢力伯仲して
結局は事務管掌

石城郡植田町長は缺員の儘既に二ケ月を經過し一度協議會を開きたるまゝにて政民兩派は互に古川、鷲の兩縣會議員を推して讓らず何時決定を見るかわからぬ狀態にあるが過般民政派に屬する某町議が町長代理小野助役を訪問し後任町長に鷲淸昇氏を推して同意を求めしに助役は政治的先輩たる古川傳一氏を最適任なりとして其意に從はず物別れとなつたが現狀儘押し切つて町長選擧の町會を招集すれば結局同點に年長爭ひの醜態を演ずる事となるので小野助役は町會招集の意志を有せざるものゝ如く斯くして五月廿七日助役の任期終了と共に不面目ながら其の事務管掌を受け六月卅日町會の改選を待つの止むなきに至るものゝ如く觀測される

元郡役所の
間借團体
引越先の協議

平町元郡役所内各種團体では二十二日團体主任會議を[illegible]き平署移轉について團体の行動について審議したが結局團体の基金を支出し縣補助を仰ぎ團体合同使用の建物を建設する事になるらしいと

讀者欄

或る問に答ふ
一太郎

◇主として過去に泥むものが支那人であり、未來を豫測して進取的に出るものが日本人であると外國人はいふて居る。明治以來の經驗を基本とすれば此如觀察に多少の理由はあるのである。不幸にも日本人の體の傾向は、今や次第に支那流を追ふて進むで居る少くとも最近の政爭は悉く回顧的だと謂へるのだ。

◇對支外交をどうする、露國關係をどうするか輸入超過の慢性的傾向は人間能力の外に在るのだらう乎。前途有爲の青年學生をして、徒らに丸ノ内の空を拜む。五十圓ノ月給を祈らしむるが如き、卑々屈々い風氣は終に一種の不可抗といふのだらう乎。眞に政治家の見識を具へる人があるならば其の最高の能力を發揮する機術は正に今日に在るのでない乎。

◇嚙ぢりつきざ叩き落しとは、今や政治の一切でり、言ひぬけと問責とはその絶對の手法である。權力爭奪の直接の目的を遂ざかつた各般の問題は、國務の大中に於て如何に須要にあらうともその解釋の爲めに如何に綿密の研究を要するであらうとも、議員諸君の興會に投ずることは出來ないのだ、例へば治安維持法委員會に於ける某議員の脅問である。

◇泉二局長に質問した某議員の言葉、いふ刑罰を重くすることは果して指導者（赤化的）を取締るに完全と思はるゝ乎、と

◇共産黨事件の發生以來此の種の問題に對して記者は繰返し辯じて置いた筈だ所謂赤化取締に對して唯一無二の絶對有効の妙法は無いのである。單なる法律に依つて天下の惡人を根絶することが出來るならば天下に惡人は居ないのである。一般に泥坊の惡い事と特に說教强盜の怖い事とは何人も心得て居るに拘らず、且つ之を取締るの法律は儼乎として存在するに拘らず、濱の眞砂は永久に盡きないと謂はれて居るが如く法律の制裁の極限は何人も認めざるを得ないのだ。而も其の法律、制裁の極限の爲めに法律の制裁を無用とするの理由は成り立たないのだ

明日の吉凶

舊曆一月十五日　新曆二月二十四日

▲一白　一家心を纏めて專心業務をはげむが安全の日▲二黑　追々と盛運に向はんとする端緒物事焦るな▲三碧　虚榮を愼め目上の言葉に從へば大吉となる▲四綠　鬱氣散じて物事順調に進む外より内が吉し▲五黄　位の高まりて實收は意外に少き日旅行凶▲六白　事業も都合よく運び行き願望も成就すべし▲七赤　我意を通さず萬事目上の人の言ばに從へば吉▲八白　果斷にして迷ふ事なくば成功の一日となる▲九紫　心決せざる時は小事も手に餘る事となる日

講談
幕末[illegible]
(167)
渡邊默禪作　宮野歌春畫

甲州は有名な長脇差の巣窟だけに、古來氣を負ひ武をたつとぶの風があつた。でいかなへんぴの土地へ行つても五六箇村聯合しては擊劍の道塲を建て先生を招聘して來て仕事の暇にヤツトウ〳〵の稽古をする又た山國であるから遊獵が便利だ、時々誘ひ合しては鐵砲を肩に峯から谷へと駈廻り猪や猿を擊止める。それが青年輩の唯一の娛樂で且つ長所であつた。此樣な習慣氣風の中に人となつた雨宮であるから、自然肌合も任俠殺伐な博徒風に出來揚つて遂には戰爭に飛出すやうになつたのである。

山の奥であるから是ぞといふ醫者も居ない、梶原を連込んで第一に困つたのはキヅの療治だ。兄と母と相談の上村から三里許離れてゐる一の宮といふ町から洞庵といふ醫者を馬に乘せて呼寄せ、診察をし貰つたが正体が知れては大變であるで取引仲間の江戸の商人だが、此處へ來る途で落行く賊軍に出會ひ、所持金を强奪された上、こんなに斬られたのだとごまかした。

手當の効驗、日倍しに快くなる、最う此分ならば床揚をして、起きてゐても差支がなからうと言ふまでになつた。或る日の夕景近い頃梅は雨宮を側へ呼んで

「たい次郎吉、今日はしんみりた禮を言はなけりやアならねえが、お前には實何とも言ひやうの無い世話になつた、人間も落目になつて來ると、親類や友人でせい袖にして遠ざかるのが人情だのに、た前は只た五六日の交際をしたばつかり深ね知己といふ仲でもないのに、能くまア私のやうな者を面倒を見てた呉んなすつた、此の御恩は何時返せるか、先の知れねね体だが運好く德川さまの御代を盛返すことが出來たなら決してお前の親切を空にはしねいから、の、それまでの所濟まねえが義理を貸して置いて呉んな」

と布團の上に正しく坐つて、片手を突きながら禮を言ふ

「何でえ、あらたまつて…詰らねえことを言ひなさんなよ、俺ら錢で酬つて貰ひたくつて人に恩は賣らねい男は相見互ね、困つた時にはみすしらずの人だつて世話をしてやるのが[illegible]だ、きして兄貴は德川さまの爲に命をなげ出した立派な武士ぢやねいか、私だつて德川さまの恩を受けた家柄だもの、その御家來の武士を疵うのが別段不思議なことは無からう、こりや兄貴に盡すんぢやア無い、將軍さまへ御奉公をするのだ、俺ア其の了見でゐるから、兄貴もそう思つて呉んな。何だつまらねい。」

「いや有難う、そうして言つて呉れるから、私もどのくれい嬉しいか知れねのだ、時にな、た蔭で創も大略瘉つたやうだし、此分なら歩くにも困りやアしねねだらうから、まア明日あたり御暇をして、そろ〳〵江戸の方へ出掛けて見ようと思ふんだ」

「何、出掛ける！止しねい〳〵、猶日早いよ、瘉つたと云つても腕が利かねい樣ぢやア何にもならねい、切めて其の繃帶が除れるまで辛抱しなよ、急ぐこともないぢやないか。」

診察無料
如何なる重患でも直ちに瘉る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士敬白
大谷時計病院
電話一九番

營業種目
內地材　材木各種、羽柄材各種　建築諸材請負　礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達　其他請負
㊀ 佐藤材木店
常磐線平町新川町　電話三三五番

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇
平町五丁目角　大販賣店　山野邊藥局

外科　婦人科　內科　X光線科
外科一般　耳鼻科　花柳科
婦人科　產科
赤心堂病院
平町田町（電四七五）

高久病院
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽淸
藥劑士　佐竹菊雄
平町田町　電話五一〜三番

夜間診療
胃腸專門　內科　十二指腸虫病　內科部
梅毒專門　淋病　婦人病　皮膚病　外科部
平南町　松村病院　電話一〇七

ホシシクロの特賣
花柳病の豫防藥
バイドク、サウドク、リンドクを良く殺虫致します
注意　然し子供の欲する人は使用していけません
定價　五拾錢　壹圓　武圓
平町三丁目
星製藥磐城配給所

御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所（共濟病院內）十一月一日ヨリ開始
一病氣相談所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
一救療所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
磐城共濟病院
看護婦見習募集　平町電話六四一番

內科、小兒科（院長每日療）
院長　醫學博士　難波睦
副院長　醫學士　五十嵐雄次
內科部長　中西林藏
外科一般
外科部長　醫學士　氏家憲介
每日曜手術　醫學博士　鈴木退輔
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長醫學士　五十嵐雄二
顧問　醫學博士　川添正道
×光線科
主任　醫學博士　難波睦
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主事　賀澤忠治

決戰投票の確信なく 兩派徒らに腹の探り合ひ
二年交代の仲裁案も出でて 開けぬ平町會（午後零時半記）

平町本年度豫算案と町長改選問題を控へた平町會は二十三日午前十時より開會の筈であつたが旺むに闇躍中の伏見氏再選派と青沼氏擁立派は尙ほ最後の見極めが付かず青沼派は三丁目山体屋旅館に伏見派は紺屋町扇屋旅館に會合し互ひに腹の探り合ひをするのみ何れも町會議場に姿を見せず何時開會されるとも知れぬ狀態にあるが絶對優勢を誇り少くとも二十名以上を以て勝算確實を吹聽した青沼氏派は二十二日夜來勢力稍々衰ひ決戰投票に臨むの確信を失ひたるもの丶如く兩派とも徒らに焦慮するのみであるが午前十一時に至り一部町議により仲裁案なるものを提議さるに至つた卽ち四ケ年の任期を二ケ年交代の條件で無競爭裡に解決せしめたいとの提議に對し只今双者間に熟議中であるが斯くの如き妥協條件は町村制に違背するは勿論、來る五月限りを以て任期を解ける現任町議が斯かゝる無謀の計をなすは自治体を弄ぶの所以ごもなり越權の沙汰なりとの誹りも免れ難く倒底出來る相談に非らずとの意見が有力にして此の交代の仲裁案は成立する模樣もなく兩派とも確信なく徒らに時を過ごすのみ、不安な空氣が漲つてゐる（午後零時半記）

二票の差で伏見氏當選
午後二時五十分決戰投票で 青沼氏遂びに屠らる

當選した伏見彥衛氏

容易に開けなかつた平町會は午後二時十五分に至つて漸やく開會し伏見町長出席廿九名（全員）と報告して日程に入るや、阿部唯次郎氏は町長選擧を滿期の翌日たる二十五日まで延期の動議を提出したが加納五郎氏の日程を變更して卽時決戰投票の動議成立し伏見町長開票立會人櫻井清、大森勇、野崎滿藏の三氏を指命し直ちに決戰投票に入り此の間三十分緊張の空氣の裡に二時五十分開票の結果投票總數二十九票中白票一（青沼氏か或は渡邊貫一氏らし）有効二十八票中左の如き結果により伏見彥衛氏が當選した

當選 十五票 伏見彥衛氏
次點 十三票 青沼鋒太郎氏

伏見氏こそ適任
青沼氏は腕に傷あり 易に現れた對照

平町々長改選問題は現町長伏見氏對青沼氏の競爭となり今や猛烈の潜行運動を開始せられてゐるが平町古鍜治町青山而衆氏が二十二日夜潔筮した處によれば火風鼎の第二を得

九二。鼎有實。我仇有疾。不我能卽。吉。

斷に曰く鼎は金屬製の重器にして五味を調和し祖先を祭祀するの具にして輙すく動かすべからざるものである之を譬ふれば鼎は町長の位置にして位正しく動かすべからざるものにして社會の秩序をして和熟せしむるものである。易の辭に曰く鼎有實と現町長鼎い重くして動かすべからす實力手腕ありて上下を和熟せしめ能く町是を經綸し天地の神祇を祭祀する人にして正に其職責を盡すに遺憾なきものである。又之に對抗する人は我仇有疾とあればこの人を移動せんとする人の腕に傷疾ありて之を動かすことを得ずと言ひば何等かの事情ありて讓歩するの止むなきに至らんものと占斷せらるゝのである。

天命己に以上の如くなれば現町長の再選せらるゝこと疑を容れず然るを若しも惡疎なる手段によりて落選せしむるが如きことあらば町は此適任者たる偉丈夫を空しく失ふものと言ふべきである。（中町青山而象）

傾城トンネル龜裂 地質關係と判明
入山の採礦に關係なく 疑雲は全く晴る

常磐線綴、湯本驛間傾城トンネルは昨年六月突然龜裂を生じ列車

運轉に危險となつたので鐵道省では約六萬圓を投じて鐵枠吊り上げ工事を施行して十一月工事の完成を見たがこの龜裂原因は炭礦の採掘に依るものであるとし仙臺礦山監督局に交涉し結果兩省が專門技師を派遣し龜裂原因を前後一ケ月に亘つて調査した結果

鐵道側では飽までも炭礦に依るものとして仙臺礦山監督局に百二十余萬圓の賠償金を要求した、之に對し監督局では一切の回答を避けて更に調査研究を遂げた結果、右龜裂は全く炭礦の採掘に依るものでなく地質のため龜裂を生じたもので從つて同局としては鐵道側の要求には絶對に應ずることは出來ず又責任をも負ふものでないと此の程鐵道當局に對し强硬拒絶の

回答をなした傾城トンネル龜裂以來八箇月に亘つてその結果如何を注目されて來た大問題も玆に最後の結末を告げることになつた從つて今後同トンネルの徹底的工事を行ふとすれば鐵道省自身が一切の工費を支辨しなければならない

漁業商共濟會

石城郡鮮魚商組合共濟會總會は二十日平町平館に於て開催したが役員改選の結果會長に佐藤作平氏、副會長鈴木又六、吉田清吉兩氏、顧問加納五郎外四氏と決定

再び詩南車を論じ
誤れる藝術論を笑ふ（上）

丘番緒

ある辯——ある學惰によつて書き放しに儘の此の論文を發表しなかつた，けれども四枚のトク名ノ脅はく的な强要文と二枚の本名の女性から（大分）興奮した手紙を此所一週間許り續けてもらつて、發表する事にした

片寄が僕の十日許り前の論を大分興奮して、夢中になつて反ばくした。其の熱氣のせいでも有るまいが彼は廣義な意味に於ける藝術に大きな誤れるドグマな定義を下した。彼は言た。僕達は（此の語は彼自身丈であつて、決して其寄せ集め的な文學青年の集團を代辯するものではない最も忠僞な、むごたらしいプロレタリヤの生活を、しう惡な資本家のカラクリをもインペイしギマン彼り此の語に美の探求者なる語をもつてした、彼はハツパにさかれた坑夫ノ顏から恐らくわよんノぼからしい美を見つけ出さうとするらしい）する爲の所謂藝術家でしかないと、片寄は藝術ノ意義をはき違れた、彼はセンチメンタルな文學青年乃至は皮想的な唯美論者の故に凡ゆる學物に幻覺的な美を畫かうとした、否それが所謂藝術たるものゝ本体であるかノ樣ト誤解した。私は彼、誤れる藝術論を檢討しよう。

所謂廣義な意味に於ける藝術とは各々の人が有する鋭い直覺によつて、現實の持つ眞意義を看破し色彩音律或ひは言語によつて之を表示するものを言ふのであつて、藝術が其の存在を必要とするのは人類が人として高き生活に入らんが爲で換言すれば必要上ノ必要に從されて生じたものである。そして藝術は人をして其の自然性と結合せしめる媒介者でなければならないのであつて決して人類の闘爭（人類をよりよき存在とせんが爲の）圈外にあつて、ばつ人間的なセンチメンタル唯美主義（私は所謂彼の言ふ美の探求者なる語を此うてい正する）に沈溺しきの逃避によつて得る幻覺は此れを藝術と呼ぶ可きものでない。

從つて此うした文學性は彼片寄の言ふ如く決して廣義な藝術でない。否私は此れを片寄のみが持つ恐らくわ世界に唯一なひどく狹義な彼の無智が生んだ彼一人のひとりよがりな藝術論であると斷言してはゞからないが併し吾々は彼が吾々はプロレタリヤ藝術を奉ずる人間でもブルヂョアー藝術を奉ずる人間でも同人費を出せば其の雜誌の同人とすると公言した一語によつて彼の言明する所謂美の探求者たる語が何等彼自身の經營する雜誌とは線遠い存在有る事が直覺出來る。

然らば彼等は如何なる存在に自己を保持するかと言ふ問題に迄吾々の理論は到達する、彼は詩南車の存在をブロ藝でもブル藝でもないと言つた。

けれどそれはいたづらに自己をもうらうとせんが爲のキ辯に過ぎない。プロレタリヤ藝術かブルヂョアー藝術か、現在を貫流する一切は此の二大階級以外に其の存在を逃避さす事は出來得ない。

故に吾々ののぞくするプロレタリヤ藝術（勿論三野混沌達の支持する藝術的社會主義をもふくむ）以外の藝術は一切プルヂョアーのガンロウ物として發生したに過ぎない藝術でしかないと斷言出來る

平町會議員選擧の有望格者確定
總數三千九百四十六人 各町別の有權者

平町に於ける定員卅名の町議改選は五月末日で向後三ケ月餘を存するが近年益々進出して來た新興勢力に侮り難きもののあるので少なくとも四十名の立候補はあるらしく內舊議員から十七名位の出馬を見込まれ居るもの結果は相當番狂はせを免れまい同町の有權者は去九月十五日現在登錄三九五四名から八名の失格で三九四六人の確定になつてゐるが之を前記四十名に割當てれば九十八要餘で候補者は此得票に確實性がなければ安全でない事は云ふ迄でもない因に各町有權者數は左の如くである

新町長橋一五八、研町古鍛治二三一、紺屋一七〇、三丁目九六、新川見見二五二、四丁目九九、五丁目一二六、材木一五四、鍛治一一八、南町二一九、久保一二〇、北目胡摩澤一七四、北白銀一三四、鎌田二三三、定町二四六、堤の內二二一、南白銀二一一、大工六六、才槌小路一八八、舊城跡一三七、八幡小路六五

公有林盜伐
平署ノ檢擧さる

平町の堤內居住宮城縣宮城郡伊具郡西根村生れ太田味右衞門(五七)は昨年以來石城郡飯野村其他の公私有林から連續して細い雜木を盜伐し炭鑛方面で使用する「タガラ」を製造販賣してゐることを其筋に發覺去廿一日檢擧取調中であるが相當の被害額に達するらしく尙同人は窃盜前科一犯を有し餘罪あるものと見込まれてゐる

財布をスル
神田一捕はる 活動見物中

茨城縣多賀郡礎原町大字礎原生れ目下住所不定無職神田一(三三)は窃盜前科二犯を有する者であるが昭和二年五月中掏摸犯にて平署に檢擧され一年六ケ月の刑を受け昨年九年福島刑務所より放免され地方を流浪し昨二十二日夜十時頃平町南町平館に活動見物に入り同見物客石城郡豊間村大字薄磯字中町魚行商人山野邊茂重の袖の中より現金四十圓餘入りの蟇口を掏摸し何に喰ぬ顏で同夜南町を徘徊中平署青田、柴崎兩刑事の爲めに御用となつた

延期願ひ
小炭礦業が

平稅務署管內小炭坑業者の三年度鑛業稅は何れも滯納となつてゐるので同署では過般來より差押へ處分等によつて整理中であつたがそれでも納稅者なき有樣に競賣を斷行する旨通知したところ最近各小炭坑業者から納稅期限の延期方を申請して來る始末に同署では全く手餘してゐる

漁船の船長
不足を告ぐる 縣の養成講習會

本縣下にたける漁船々長免許狀所有者は登簿漁船數に比し極めて少數で常に船長の不足を來たし延ひては漁業經營上困難を感じつつあるのでこれを補充すべく水産試驗場をして漁船丙種運轉士養成の講習會を開催した上仙臺遞信局海事部に對し船舶職員臨時試驗を同試驗場にたいて四月初旬施行せられたいと本縣知事か仙臺遞信局長へ二十日申請したが受驗希望者は四十三名に達してゐる

火打合見物歸りの 通行人を轢く
昨夜神谷村の街路で 亂暴極る自動車

石城郡四倉町鈴木自動車鈴木光治方運轉手鈴木定夫(二三)は二十二日午後十一時十分頃平町から四倉に向つて運轉疾走し神谷村地內國道に差掛るや前方より火打合ひ見物歸りの同村上片寄菅波道行(三二)平町七丁目今泉源喜(三三)同松崎武男(二四)の三名が泥醉してヨロ〳〵歩行し來たつたのを該自動車が除ける調子に菅野、今泉の兩名を轢き倒し數間引摺つたため兩名は重傷を負ひ昏倒した擧平署に發覺し關係者を召置目下嚴重取調中であるが平署では最近の頻繁に起る自動車事故に鑑み若し該自動車に不備の點があれば用捨なく營業停止を命ずる筈である

今夜から明朝へ 鳥小屋の奇風習
古くより傳はる慣例に 郡下各村落で

石城郡地方の今二十三日は舊陰曆十四日に當り、各町村にては農村娛樂の鳥小屋を造り瀑竹佐義長と共に正月氣分に陶醉する往古よりの慣例であるが數年前より小兒の弄火、經濟上等より見て之を打破せんと取り締るも四倉火打合同樣にその廢止は極めて困難である

鳥小屋とは瀑竹佐義長と共に俳句、川柳に讀まれ小兒青年等により舊十四日に炭俵、わら竹等にて人家離れし田畑に造り大男子長男生れし家を宿とし之れより器物を借りて鳥小屋にて田樂を賣る、而して十五日沸曉各家々の松飾りを鳥小屋に運びて鳥小屋諸共燒拂ふものである。

鳥小屋とは七草等と同樣に惡鳥來り害毒被害あるより之を瀑竹佐義長或は鳥小屋を造りて惡鳥を追拂ふ村童の「ホーイホイの鳥小屋……」等の口にする如く歌澤の鳥追であら、地方古老の鳥小屋の火に當れば風をひかぬとか病氣をせぬとか厄年の者は鳥小屋七個參拜すれば厄は拂はれると信じ各家々では正月樣を鳥小屋にお送りすると其際は粥を煮てホーイホーイの家中の惡魔と共に松飾を其家の年男がもく浴して運ぶ、崇嚴なもので鳥小屋には子供等其燒失の際ばく竹の音の大なるを誇りとする緣起である

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社 平出張所 電話 六〇三番 五四一番

高級車貸切

開店披露

自動車御用ハ 電話三四三番（サシミ）

平驛前 昭和タクシー

澤正路

釀造元 清世界 銘酒 各炭鑛御用達

石城小名濱町 清水屋 小野晋平 電話六番

生花教授

池ノ坊流 生花を懇切叮寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい。

平町十五丁目通り 須藤まつの

舍弟工學士中島廣胖事永々病氣ノ處本月十二日死去並ニ末弟良廣儀突然腹膜炎ニ腦症併發仝月十四日死去致シ候間乍略儀以紙上御通知申上候

追テ來ル廿五日午後一時ヨリ二時迄ノ間自宅ニ於テ告別式執行可致候

尙亡母前年假葬ノ處併セテ本葬相營ミ可申ニ付申添候

昭和四年二月廿二日

兄 中島孟

外親戚一同